

Finovate Europe 2019 にみる

フィンテックの最新動向

Short Review
2019年6月投資工学研究所
佐藤 史仁
田中 良典

■ Finovate とは、2007 年から続いているフィンテックのピッチイベントであり、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロンドン、香港、ドバイ、ケープタウンと世界各国で開催され、毎年、金融関連の最先端のイノベーションが紹介されている。本年の Finovate Europe は、2 月 12 日から 15 日の計 4 日間開催され、最初 2 日間のデモセッション、3 日目のフィンテックに関わる各方面の第一人者による講演やディベート等の一般セッション、4 日目の AI Summit とオープンバンキング Summit で構成されていた。本稿では昨年に引き続き、本年 2 月に開催された Finovate Europe 2019 の参加報告を行う。

1. Finovate Europe 2019 の概観とそのトレンドについて

はじめに、本年の Finovate Europe のデモセッションについて、直近 3 年間の登壇企業数と Best of Show¹の推移（表 1）を確認したい。まず、登壇企業数について、本年の企業数合計は 3 年連続減少の 64 社（前年比-4 社）となっており、その地域別の内訳は、欧州域は直近 3 年で最も少ない 45 社（前年比-6 社）、欧州外は前年から 2 社増加の 19 社であった。また、創業年数別では、創業 5 年以内の企業数は 42 社（前年比+6 社）と 3 年連続の増加、一方、創業 20 年以上の企業数は昨年より半減し 6 社となった。次に、Best of Show 受賞企業数について確認すると、本年は 8 企業が受賞しており、その地域別内訳は、欧州域が 4 社（前年比-3 社）と 3 年間で最も少なかった一方で、欧州外では、昨年の 0 社から 4 社増加し 3 年間で最も多い受賞企業数となった。また、創業年数別で確認すると、創業 5 年以内、20 年以上とも 3 年間で最も多く、それぞれ 4 社（前年比+2 社）、3 社（前年比+2 社）となった。さらに、20 年以上の登壇企業については、その半数が Best of Show を受賞した。

続いて、登壇企業のサービス内容やプロダクトの特徴を、集計したキーワード²（表 2）から確認したい。PSD2³や GDPR⁴等の欧州制度・政策対応に関連しているワードである APIs/SDKs、Open Banking、

¹ 登壇企業に対し Finovate の参加者の人気投票で選出される。

<https://finovate.com/finovateeurope-best-of-show-winners-announced/>

² Finovate Europe2019、2018 資料の企業プロフィール欄に、登壇企業のサービス内容やプロダクトを示すキーワードとして掲載されていたもの。1 企業で複数キーワードあり。

³ 第 2 次決済サービス指令。EU 加盟国の国内法化期限は 2018 年 1 月。決済サービス業者の要請に対し一定の規制の下、顧客口座データへのアクセスを容認するように規定された。Directive (EU) 2015/2366 of the European Parliament and of the Council of 25 November 2015 on payment services in the internal market, amending Directives 2002/65/EC, 2009/110/EC and 2013/36/EU and Regulation (EU) No 1093/2010, and repealing Directive 2007/64/EC

⁴ 2018 年 5 月から欧州にて適用が開始された一般データ保護規則。EEA 域内で取得した個人に関するデータの加工と域外への持出しを規制している。Regulation (EU) 2016/679 of the European Parliament and of the Council of 27 April 2016 on the

表 1. 直近 3 年間の Finovate Europe 登壇企業数とその内訳

各企業属性		Finovate Europe開催年別企業数		
		2017	2018	2019
地域別	欧州域	49(6)	51(7)	45(4)
	欧州外	22(1)	17(0)	19(4)
創業年数別	創業年数5年以内	33(3)	36(2)	42(4)
	創業年数20年以上	10(2)	12(1)	6(3)
	その他	28(2)	20(4)	16(1)
合計		71(7)	68(7)	64(8)

注) 括弧内の数字は Best of Show 受賞企業数を示す。欧州域として、アイスランド、アイルランド、イタリア、エストニア、オーストリア、オランダ、スイス、スウェーデン、スペイン、スロベニア、セルビア、チェコ、ノルウェー、ハンガリー、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、マルタ、マン島、ラトビア、英、独をカウントした。欧州外は、イスラエル、インド、カナダ、シンガポール、ロシア、中国、米をカウントした。

出所) Finovate Europe 2019,2018,2017 資料より日興リサーチセンター作成

Risk management/Compliance が上位に挙がった。これらのキーワードは、昨年と同様に上位となっており、欧州の各種規制等を背景としたオープンバンキング化の流れが、引き続き欧州のフィンテック業界を後押ししていることが示唆される。また、人工知能に関係するようなワードである AI、Analytics/Big Data Visualization も昨年に引き続き上位となった。特に、Analytics/Big Data Visualization は昨年から 4 ポイント上昇しており、ビッグデータを活用したサービスに各社が注力している様子がうかがえる。一方、本年の大きな特徴として、昨年には無かった Banking や Payments、Compliance 等、10 個のキーワードが出現した。これらのキーワードは概して、昨年までのキーワードと比較してより広範囲で抽象的なワードであるといえよう。例えば、Banking は Open Banking や Core Banking を、Payments は Mobile payments や Alt payments を、UI/UX/CX Design は UI/UX Design⁵ を包含していると考えられる。これらのキーワードの出現は、本年発表したサービス内容やプロダクトを昨年までのキーワードで表現することが難しくなってきたことを表しているのかもしれない。つまり、これまで培った技術やサービスの適用を周辺分野へ拡大していることや、複数の機能を備えたプラットフォーム等、複合的・横断的なパッケージ化されたソリューションサービスの提供が拡大してきていることが考えられる。同様に、Data や Identity もサービス内容等の特徴を示すキーワードとしては抽象的な表現であろう。サービス拡大に伴う活用データの増加とデータ取得や管理の重要性が高まり、それにあわせて本人認証等に関わるセキュリティの正確性・堅牢性に対する要求も高まってきていると思われる。また、Customer Care/Service が、顧客からの問い合わせを受けるコールセンターや製品購入

protection of natural persons with regard to the processing of personal data and on the free movement of such data, and repealing Directive 95/46/EC

⁵ 本稿では掲載していないが、昨年の Finovate Europe2018 で UI/UX Design がキーワードとして挙げられていた。UI はユーザーインターフェース、UX はユーザーエクスペリエンス、CX はカスタマーエクスペリエンスの略。一般的に CX は UX より広い概念として用いられている。

後のアフターフォロー等のカスタマーサービス全般を示すようなキーワードとして出現した。このキーワードは、顧客と企業担当者間で1つのウェブブラウザ画面のリアルタイム共有を実現するような Collaboration platform や Communications に関するサービスを含むと考えられる。今年の Best of Show 受賞企業の1つは、これらキーワードが示すような機能を備えたカスタマーサービスプラットフォームを発表していた。フィンテック技術を Customer Care/Service 分野へ適用したサービスへの関心の高まりがうかがえる。

表2. 登壇企業のキーワード集計

順位	キーワード	割合	順位	キーワード	割合
1	Banking	59% (New)	20	Biometrics	11% (-2)
2	AI	31% (-1)	21	PFM	11% (-1)
3	APIs/SDKs	28% (-1)	22	Sales & marketing	9% (-5)
4	Open Banking	23% (-3)	23	Back office	8% (-4)
5	Analytics/Big Data Visualization	22% (4)	24	Chatbots	8% (0)
6	Payments	22% (New)	25	Communications	8% (2)
7	Compliance	20% (New)	26	SMB/SME	8% (New)
8	Wealth Management	20% (7)	27	UI/UX/CX Design	8% (New)
9	Risk management/Compliance	19% (0)	28	Blockchain	6% (-4)
10	Data	17% (New)	29	Collaboration platform	6% (-6)
11	Insuretech	16% (1)	30	Lending/alt lending	6% (-6)
12	Machine learning	16% (-5)	31	Algorithmic investing	3% (0)
13	Core Banking	14% (8)	32	Alt payments	3% (-4)
14	Identity	14% (New)	33	Financial Inclusion/Underbanked	3% (New)
15	Security	14% (5)	34	Alternative investing	2% (-3)
16	Customer Care/Service	13% (New)	35	Cryptocurrency	2% (New)
17	Mobile payments	13% (1)	36	Internet of things	2% (-4)
18	Mobile wallets	13% (5)	37	Underbanked	2% (-1)
19	Regtech	13% (1)			

注) パーセンテージで示した数値は、登壇企業数に対するキーワードを示していた企業数の割合。括弧内の数値は、前年の割合に対する増加減を示すポイント数(本年割合% - 前年割合%)。New は昨年登場しておらず本年登場したキーワード。
1 企業に対して複数のキーワード有り。

出所) Finovate Europe 2019,2018 資料より日興リサーチセンター作成

Finovate Europe 主催者による今年の総括⁶をみると、同じような課題への取り組みが目立った以前とは異なり、現在はそれぞれの企業がテクノロジーを発展させ次の新たな領域を探している創造的なフェーズにあることを指摘していた。また、今年の Best of Show の受賞企業はこれを反映して、各社のサービス内容が多様性に富んだユニークなものとなったとコメントしていた。一方で、イベント4日目の Summit Day での AI Summit の講演では、大手金融機関による AI 等のフィンテック技術のビジネスへの実際の導入事例をテーマにした発表が多く、フィンテック技術の実務への導入が着々と進んできていると感じた。また、ビジネスへのフィンテック技術導入を通して、ビジネスの持続的な運営や成長及

⁶ FINOVATE BLOG <https://knect365.turtl.co/story/nextgenerationfintech> に掲載の eMagazine を参照。

び展開を実現するための組織体制や必要な意識改革等に関するノウハウ、顧客ニーズに対して考慮すべきサービス設計上のナレッジ等が蓄積されてきており、これらに関する知見の紹介もあった。

今年の Finovate Europe のデモセッションは、それぞれのフィンテック企業のサービスソリューションに関して、自社の技術的強みや蓄積されたノウハウ、構築したプラットフォーム等の活用で、機能の拡張や顧客ニーズに合わせた設計等による洗練が進んでいると感じられるものであった。この進展に対応して、Banking、Data、Identity、Customer Care/Service 等のキーワードが本年新たに出現したのだろう。これらの変化は、登壇企業全体の傾向としてだけではなく、Best of Show 受賞企業にもバランスよく表れていた。一方で、AI Summit では、新しい技術やサービスの実務への導入を通して、顧客がこれらサービスを利用する際のカスタマーエクスペリエンスのさらなる向上に関する知見はもとより、企業内部の組織体制等、実務視点ならではの話題が主題になっていた。以降、特に印象深かった Best of Show 受賞企業及びサービス内容等と、AI Summit での講演内容について紹介したい。

2. Best of Show にみるフィンテック最新動向

上述したように今年の Finovate Europe の Best of Show 受賞企業数は 8 社であったが、そのうち半数の 4 社は、過去 3 年間に同賞の受賞経験がある企業であった。その代表となるのが、2017 年から Finovate Europe の Best of Show を 3 回連続で受賞している CREALOGIX 社であろう。CREALOGIX 社は、リテールやホールセール、ウェルスマネジメント向けのデジタルバンキングプラットフォームを開発し、API 等で銀行口座等から取得するデータと AI 技術等を用いて多岐に渡る金融アプリケーション等を開発、提供し複数領域へサービスを拡大しているスイスの企業である。2017 年はバーチャルリアリティ上で現金決済の流れのビジュアル化及び分析等が可能であるユニークなオンラインバンキングアプリ、2018 年は複数の銀行口座や保険等のデータを集約・管理し、AI を活用した分析等によって財務状況等の評価ができるアプリ、そして 2019 年は貯蓄やローン等の顧客行動に対しあらゆる財務シナリオをシミュレーションしビジュアル化できるアプリを発表しており、顧客にとって新しく、より便利なサービスを目指したアプリケーションの開発が続いている。これらは概して、オープンバンキング化の中で API を活用し、銀行口座や保険、ローン等個人の様々な財務的活動データの収集・集約を行い、さらに、AI を用いてより望ましい財務的判断ができるような情報やサービスを提供するものとなっている。また、これら共通の特徴の 1 つとして、モバイル端末上で実行でき、かつ、バーチャルリアリティの採用やシミュレーションを時系列アニメーションでビジュアル化する等操作性や見た目の観点からも新たなカスタマーエクスペリエンスを提供している点が挙げられる。これらは、主にスマートフォン等のモバイル端末上での Facebook 等の SNS や YouTube 等の動画視聴・配信等のデジタルアプリケーションサービスに慣れ親しんでいるような、デジタルネイティブな世代以降⁷の人々向けの次世代金融サービスデザインと言えるだろう。

⁷ 例えば、ミレニアル世代など。ミレニアル世代とは、一般的には 1980 年台序盤から～90 年台半ばまでに生まれた人口として定義される。Y 世代 (Generation Y) とも呼ばれる。 <https://www.ipa.go.jp/files/000069835.pdf>

ハンガリーの投資ソフトウェアプロバイダーDorsum 社もデジタルネイティブな世代等を意識したサービスを発表していた。同社は、一昨年のオンボーディング⁸のためのチャットボットプラットフォームで Best of Show を受賞していたが、本年はウェルスマネジメントサービスとして、AI のチャットボットと従来のアドバイザリーサービスを融合した「My Wealth」で同賞を受賞した。このサービスは、発表でも言及されていた音楽ストーリーミングサービスである Spotify⁹のようなカスタマーエクスペリエンスを意識した設計となっている。具体的には、モバイル端末上での簡単な操作や顧客の好みがプレイリストへ反映される等の Spotify のカスタマーエクスペリエンスが、My Wealth でも取り入れられている。例えば、簡単な質問に答えること等で、リスク選好度等を含む顧客の好みにパーソナライズされた投資ポートフォリオが提示される。また、自己学習する AI チャットボットによるアシスタントの他、人の投資アドバイザーによるポートフォリオのレビューやその他相談をモバイル端末上からシームレスに行うこと等が可能となっている。Dorsum 社は、Y 世代や Z 世代¹⁰が投資を行うという選択において、投資リターンよりも、彼らが普段利用している Spotify のようなサービスのカスタマーエクスペリエンス等が最も重要な要素であるとコメント¹¹している。このように、従来のように投資リターンに重点を置くのではなく、むしろ顧客の属性や選好、ニーズによりマッチしたカスタマーエクスペリエンスの提供を目指したプロダクトの開発がフィンテック業界でも進んできている。

その他、顧客ではなく従業員に注目したカナダの Launchfire 社が Best of Show を受賞した。発表されたプロダクト「Lemonade」は、GDPR 等の新たな規制や新製品・サービス等の知識、コールセンターでの問い合わせに対するロールプレイ等を効率的に学習できるようにゲーム性を取り入れた、企業の従業員向けの学習プラットフォームである。このプラットフォームによって、従業員エクスペリエンスの向上はもとより、カスタマーサービス等の質の向上を通じて間接的にカスタマーエクスペリエンスの向上へ寄与することが考えられるだろう。一方で、同賞受賞イスラエルの Voca.ai 社は、フロント業務であるコンタクトセンターにおいて、人間の応答と聞き分けがつかない水準の AI バーチャルエージェントが顧客からの問い合わせ対応を行うソリューションを発表していた。発表では、実際のコールセンターへの問い合わせに対応するデモンストレーションが行われ、AI バーチャルエージェントの人間に近い自然な発話による対応で、会場に驚きを与えていた。彼らの展示ブースには常に人が多く、彼らの技術への関心の高さがうかがわれた。筆者らがヒアリングした際、同社は収益や効率性の向上はもちろんのこと、カスタマーエクスペリエンスも向上が図れるとアピールしていた。また、他言語への対応も可能とのことで、様々な適用・応用先が考えられる注目の高いプロダクトであった。

ところで、顧客の利便性が高まる反面、サービス利用者がサービスを登録した本人であることの認証

⁸ ここでは、新規顧客にサービスを定着させるために、その価値や使勝手の良さ等を伝えるプロセスを示す。

⁹ スウェーデンの Spotify Technology S.A.が提供する音楽ストーリーミングサービス。利用するほど利用者の音楽の好みを学習し、膨大な楽曲の中から好みにマッチする曲が提案され、プレイリストがパーソナライズされていく。月間アクティブユーザー数は 2 億人以上となっている。<https://www.spotify.com/>

¹⁰ 一般的には、Z 世代は、1990 年台半ばから 2000 年台前半までに生まれた人口として定義されている。ミレニアル世代の次の世代。Y 世代については注釈 7 を参照。

¹¹ <https://www.dorsum.eu/news/portfolio-interview-with-dorsum-and-balint-fischer/>

等に求められる精度やなりすまし等を防止するセキュリティの重要性がより一層高まっていると考えられる。英国の iProov 社は、生体認証技術に関するソリューションを提供しており、2018 年には AI 等を用いた独自のなりすまし防止技術を適用したモバイル端末等のカメラで顔認証が行えるアプリ不要なプロダクト、本年はモバイル端末等のカメラによる非接触型手のひら認証プロダクトで Best of Show を受賞した。SNS 等から写真を入手する等でありすましの危険性がある顔に比べ、手のひらデータはその危険性が相対的に低く、認証に関するセキュリティが高められていた。他にも、顔と手のひら等の生体情報以外の要素であるワンタイムパスワード等を組み合わせた 2 要素以上の認証でセキュリティをさらに高めることも考えられる。しかしながら、認証に必要な操作やそれにかかる時間が増えてしまうと利便性が損なわれてしまうことが懸念されるだろう。この点、iProov 社の認証は特別な機器を必要とせず、モバイル端末等のカメラによるシンプルかつ直感的な認証となっており、Frictionless¹²なカスタマーエクスペリエンスを実現していると言えるだろう。

以上のように技術の向上や、顧客のニーズ、特にデジタルネイティブ以降の世代の人々のニーズに即したサービスの設計等によって、各社それぞれより洗練されたカスタマーエクスペリエンスを実現していることや従業員エクスペリエンスの向上に注目する等、サービス・プロダクトの差別化の進展が感じられた本年の Finovate Europe のデモセッションであった。なお、ここで紹介していない Best of Show 受賞企業やその他企業のサービス内容・プロダクトについては、最終ページの登壇企業全 64 社のプロダクトの概要（表 3）を参照されたい。

3. AI Summit での講演にみるフィンテック最新動向

全 4 日間の Finovate Europe 2019 の最終日は、AI Summit とオープンバンキング Summit が開催された。AI Summit では、全 9 つの講演が行われ、そのうち 7 つは欧州地域の大手金融機関の実務家による発表であった。主な内容は、各金融機関における AI 導入事例や取り組み、その経験から得た知見の紹介等で、例えば、顧客が自身の財務管理を適切に行えるように、カードの支払期限のアラートや現金収支の流れの確認等がサポートされる Financial Wellbeing¹³サービスが紹介されていた。また、このような顧客が直接関わるサービスでは、顧客に利用してもらうために、AI だけでなく顧客の行動や感情を考慮した設計が重要との知見が述べられていた。具体的には、顧客が理解しやすい機能やサービスにすることや、行動経済学等をサービス設計に取り入れること等が紹介されていた。

一方で、これら顧客向けのサービスに対する知見だけでなく、ビジネスへの AI 導入に必要な、企業が考慮すべき事項の紹介もあった。例えば、説得力のあるビジョンや明確な戦略の策定、AI ソリューションに対するマネジメントの理解と支援を得ること、費用対効果や技術の活用と蓄積等の観点から自社で行うのかアウトソーシングするのか、AI を導入したビジネスに統合的な組織体制、明確な役割分担、

¹² 摩擦のないという意味。サービス利用や操作などのスムーズさを表す。

¹³ Wellbeing は健康的な状態などと訳される単語で、Financial Wellbeing とは金融的、財務的に健全・良好な状態という意味で使われていると解釈される。

企業カルチャーの変革、そして顧客のプライバシーや AI に関する倫理と規制等が挙げられていた。これらは、AI 導入に際しての課題として、金融機関等における実務観点ならではの多いと言えよう。組織体制の変革や企業カルチャーの変革等、企業内部の問題への対応として、従業員エクスペリエンスの向上についての言及もあった。例えば、企業内での AI 導入によりビジネスそのものの変更や関連システムに対する利用や管理方法が一新されることも考えられる。その変革に対してのキャッチアップや、より効率的な業務運営達成のため、従業員エクスペリエンス向上への取り組みは、単にカスタマーエクスペリエンスの向上への対応だけでなく、AI 導入を進める金融機関として重要な課題になっていると言えるだろう。

4. おわりに

今年の Finovate Europe において、フィンテック企業のサービスは、高い技術力の活用、深掘した顧客ニーズへの対応等によりユニークでより洗練されたものへと進化し、周辺分野へ拡張していた。また、従業員エクスペリエンスの向上や、認証におけるセキュリティの高度化、AI と人とのサービスの融合、より人間らしい AI バーチャルエージェントの開発等が注目された。他方、ビジネスの現場では、AI の導入が着々と進む中、そこから得られた知見の蓄積及びフィードバックによって、AI サービス等の洗練や企業内部の課題の整理と必要な変革が進展していると感じられた。これらは、一時的なものではなく、フィンテックを含むテクノロジーのイノベーションに合わせて継続していく課題であろう。実際に、Finovate Europe 3 日目のセミナーセッションの基調講演「THE NEUROGENERATION」では、これまでのビジネスに対する考え方や働き方を根底から覆す可能性のある技術が紹介された。その技術は、人間の脳波等から体調等のリアルタイムモニタリングや、手を動かさずにロボットのアームやコンピューターの操作を可能にするニューロテクノロジーというもので、実演映像も紹介され会場の注目を集めた。この技術がビジネスの実務に適用されることになると、頭を働かせさえすればよいため、働く場所、身体的な能力やハンデキャップ等の制約は大幅に解消されるだろう。また、疲労度等が観測できるようになることで、従業員への効率的な業務割り振りや最適なマネジメントの方法も変化することが考えられる。現在、金融業界はフィンテック技術による変革の最中ではあるが、さらに大きな変革の 때가 そう遠くない将来に訪れるのかもしれない。(END)

表 3. Finovate Europe 2019 参加企業と発表されたプロダクトの概要

企業名	本社所在地	創業(年)	発表されたプロダクトの概要(関連キーワード)
24sessions	オランダ	2015	24s Conversational Analytics (video chat, speech to text, keyword extraction in conversation)
ABC TECH Group	スロベニア	2017	LEONUS Banking Digital Solution (banking digital solution, onboarding, KYC, transaction)
AccountScore	英	2016	AccountScore's consents.online (AISP contents, account management)
AdviceRobo	オランダ	2013	Psychographic Credit Scoring (credit score, small business loan)
ANORAK	英	2017	Smart life insurance advice using bank data and integrated into a mobile banking app (insurance advice)
ApPello	ハンガリー	1998	ApPello Lending Portal, ApPello Loan Factory (lending, mortgage loan application)
Aqubix (KYCP)	マルタ	2008	KYC Portal (KYC of B to B, onboarding, video chat)
Blinking	セルビア	2017	Blinking (KYC data, digital identity)
BlueRush	カナダ	2004	IndiVideo (credit card recommendation, personalized video)
Cantab Predictive Intelligence	英	2017	Figure In (real time loan approval, credit score, account transactions)
CREALOGIX	スイス	1996	CREALOGIX TimeWarp (customer banking platform, simulative outcomes, user-interface)
CybiWealth	マン島	2016	CybiWealth (digital investing platform, transparency)
Dateio	チェコ	2013	Card-Linked Rewards (loyalty rewards linked to (card) payment)
Denizen Financial	米	2016	Denizen Global Account (international transfer, global onboarding process)
Dorsum	ハンガリー	1996	My Wealth (wealth management, AI and personal advice, self-learning chatbot)
DSwiss	スイス	2008	DSwiss Safes (digital safe for documents)
Dynamics	米	2007	Wallet Card™ (the world's first network-approved "connected" card, 65,000 pixel display)
ebankIT	英	2014	ebankIT Studio (full digital bank in a cloud)
Eurobits Technologies	スペイン	2003	360 Account Aggregation (loan application process, one-stop information retrieval gateway)
Exela Technologies	米	2014	Confirmation of Payee (name detection, transaction)
FCase	英	2018	FCase (integrated fraud management platform)
FI.SPAN	カナダ	2016	FI.SPAN (connections between a bank and their clients ERP/Accounting system)
Fincite + ABN AMRO	独	2014	Fincite Automated Advice Engine (investment advice)
FinCom.Co	イスラエル	2017	Phonetic Fingerprint for AML (matches names between different databases, AI, phonetics)
five°degrees	オランダ	2010	Matrix (next generation digital core banking platform)
Flybits	カナダ	2013	Flybits Concierge (Machine Learning analysis tool , custom app)
Glia	米	2016	Omniguide (digital communications platform, conversational AI)
iGTB	英	1985	Contextual Banking Experience (CBX) (the full range of transaction banking services)
IMburse	スイス	2018	White-labeled Insurance PoS System (payment system)
InnoValor	オランダ	2013	ReadID® (KYC, verification, RFID chip in passports)
iProov	英	2011	iProov Palm Verifier (mobile palm authentication, anti-spoofing, AI)
ITMAGINATION	ポーランド	2008	my travel, my home (Digital Payment Platform, travel reservation and payment, installment payment)
ITSCREDIT	ポルトガル	2018	Customer self-service lending application (self-service customer lending application, mortgage loan)
Keepabl	英	2017	Keepabl GDPR Compliance Platform (manage processors for GDPR, DPIAs)
Launchfire	カナダ	1999	Lemonade (game-based employee engagement platform, AI, micro-learning)
LeapXpert	中国	2016	LeapXpert (compliant and secure omnichannel communication)
LOQR	ポルトガル	2015	onboarding management platform (identity verification, authentication, provider)
Microblink	英	2011	BlinkID (seamless identity document scanning)
Minna Technologies	スウェーデン	2014	Minna Tech (subscription management platform)
Icefire	エストニア	2002	Modularbank (banking as a service platform)
Monobank	ノルウェー	2015	Mono Pay (credit card and payment platform)
NDGIT	独	2016	PSD2-enabled Digital Loan Application (open banking and PSD2 platform, API marketplace)
NEO	スペイン	2017	NEO Fx Risk Management (Fx hedging, automating treasury, front-to-back solution)
Nine Dynamics	カナダ	2015	TITAN (equity analysis platform, web-based system, AI)
Nordigen	ラトビア	2016	Nordigen Report (global account data analytics, income verification, behavioral scoring)
PayKey	イスラエル	2014	PayKey's Social Banking Solution (smartphone keyboard, access key banking services, mobile banking)
Persistent Systems	インド	1990	Machine Learning Solution in Trade Finance (multiple Bank Back office, Information verification, OCR, AI)
Peyt Technologies	ポーランド	2017	Peyt (personal mobile payment assistant, management and archiving, AI)
Qwil Messenger	英	2017	Qwil Messenger (safe and compliant client chat platform)
REACH	米	2015	REACH (documents collaboration, e-signatures, ID verification, co-browsing)
Salt Edge	カナダ	2013	Salt Edge Open Banking Platform (Open Banking APIs, Unified Gateway, White Label Retail Banking)
Scanovate	イスラエル	2015	kyc360 (Cyber Identity platform, aggregate and normalize KYC data)
Secfense	ポーランド	2018	Secfense (Multi-Factor Authentication, Universal Second Factor)
Swanest	英	2014	Risk & Return Scanner (plugin / API, automated investment applications)
Tala Security	米	2016	Tala (protect user data and web user experience, AI)
TAP-ID	スイス	2018	TAP-ID (digital identity platform, KYC, blockchain, biometric signature, voice recording)
Taxnology Innovations	ハンガリー	2017	online tax return preparation tool (tax management, VAT return)
Tink	スウェーデン	2012	API Platform (API platform, open banking, account aggregation, financial data)
Upgrade Pack	英	2018	Upgrade Pack (loyalty solution, discount, consumer behaviour)
UX Design Agency	ラトビア	2015	Mobile banking app UX/UI design (Design Thinking approach, user-centered interface designs)
Voca.ai	イスラエル	2017	Virtual agent for contact centers (smart virtual agents, AI, financial services contact centers)
W.UP	ハンガリー	2014	Sales.UP (real-time customer insights, personalization, behavioral profiles, AI, data)
YellowDog	英	2015	YellowDog for Financial Services (workload predictability, predictive scheduling an orchestration platform)
Zabo	米	2018	Zabo (linked bank account, transfer, cryptocurrency)

出所) Finovate Europe 2019 資料より日興リサーチセンター作成